

外山 鉱一 議員
市民を守る!! 発災時の市の備え!!

問 庁舎被災時に行政機能を麻痺させないシステム強靭化はどのようか。

答 住民基本台帳等のデータを毎日バックアップし、物理的に離れた場所に設置されている機器に同期している。また、インフラ被害に影響されない衛星通信回線を利用したスターリンクを試験的に導入し、インターネット環境の確保に努めている。

問 刈谷豊田総合病院は災害拠点病院に指定されている。電気・水・燃料の確保と本市との情報連携はどのようか。

答 いずれも確保されている。防災無線・衛星を利用した通信を導入している。

問 緊急輸送道路の整備状況はどのようか。

答 大手町交差点から病院までの区間の無電柱化は、住吉町交差点まで整備済み、それ以降の区間は整備中の住吉橋の架け替えを含めた道路拡幅と合わせて工事を実施していく。



庁舎被災時、衛星通信回線を利用しインターネット環境の確保を



城内 志津 議員
包括的性教育の導入と推進を!! 女性と子供を守る支援体制を!!

問 体や生殖だけでなく、人間関係、価値観、権利、ジェンダー理解や暴力防止等を含む包括的性教育を、保育と学校現場で導入しないか。

答 保育計画等への位置付けは考えていないが、保育者が学ぶ機会を設けたい。学校では養護教諭部会が効果的な指導の在り方を研究している。

問 困難を抱える女性の多様な相談にワンストップで対応し、長期的な支援を行うため、専門性を備えた女性相談支援員を配置しないか。

答 現在の相談体制と県との連携を強化する事で対応したい。

問 スクールソーシャルワーカーは子ども相談センター相談員を兼務し週1～2日程度の勤務、家庭訪問は年間3回、電話連絡は30件と余りにも少ない。全中学校区に配置し、本来のアウトリーチ機能を強化すべきだ。

答 学校や家庭の要望に応えられており、現体制で対応する。



加藤 幹樹 議員
機能性を高め、さらに魅力あふれる刈谷市歴史博物館へ!!

問 歴史博物館の年間の入館者数の推移はどのようか。

答 令和5年度が39624人、6年度が38852人、7年度が35231人である。

問 館内や敷地内に飲食店等を設置する意向や計画はあるか。

答 文化庁から国宝や重要文化財の公開にふさわしいと承認を受けた施設のため、害虫への懸念が強いことから館内への設置は難しい。近隣に飲食店がないことは認識しており、今年度実証実験として屋外スペースでマルシェの開催を検討する。

問 今後、刈谷城の復元に際して歴史博物館の活用方法をどのように考えているか。

答 発掘調査の出土品や城絵図などを展示する企画展を開催し、刈谷城の歴史を伝える機会を提供したい。辰巳櫓などが復元された際は、その観光資源を有効活用し、亀城公園、歴史博物館が一体となったにぎわいが創出できるよう調査研究する。



歴史博物館と亀城公園が一体となったにぎわいを



武藤 美智代 議員
産後の家事・育児支援を充実し安心して子育てできるまちへ!!

問 産後の支援制度はどのようか。

答 産後ヘルパー派遣、育児ママ訪問サポート、産後ケア、ファミリー・サポート・センターがあり、併用も可能である。

問 各事業における支援者間の連携はどのようか。

答 心身の不調や育児不安、孤立感など、継続的な支援が必要な場合は市に報告し、保健師を中心に必要な支援につなぐ。

問 産後ヘルパーの利用条件をなくし、誰もが利用できる制度にしてはどうか。

答 令和7年度から利用期間を産後6か月、多胎は12か月まで延長した。引き続き、家庭のニーズに沿うよう、必要に応じて事業を見直していく。

問 家事支援に育児支援を加えてはどうか。

答 家事と育児を併せた育児支援のニーズが高まれば、子育て世帯の実情に合ったサービスとなるよう見直しを図る。



谷口 睦生 議員
災害時の応援職員の受入準備と迅速な被災者支援の強化を!!

問 応援職員の受援計画の策定時期や直近の見直し状況、対象業務はどのようか。

答 受援計画は令和2年3月に策定し、現在、能登半島地震の教訓や内閣府の受援計画作成の手引きの内容を踏まえ見直している。対象業務は人命救助、捜索、避難所運営、被害認定調査、罹災証明、物資物流、インフラ調査復旧等、多岐にわたる。

問 受援計画は、各部局が参加し、全庁的な策定体制となっているか。

答 令和6年度より災害対策本部の21班で構成する検討部会を設置し、受援計画の必要性や課題を共有しながら計画の実効性向上に向け協議している。

問 応援時の必要人数と業務内容はどのようか。

答 受援シートにおいて業務内容や必要人数の算定根拠を整理し、受援業務ごとに業務内容等の依頼事項を整理した上で要請することを想定している。

行政視察

先進事例を視察し、より魅力ある刈谷市づくりに生かします。

◆福祉産業委員会　（10月14日～16日）
- 東京都国分寺市　こくベジプロジェクトについて
- 東京都荒川区　ふらっとにっぽりについて
- 東京都荒川区　いきいきボランティアポイント制度事業について
- 神奈川県川崎市　かわさき基準(ＫＩＳ)認証制度について

◆市民文教委員会　（10月14日～16日）
- 大阪府守口市　守口市立図書館について
- 兵庫県相生市　「11の鍵」事業について
- 広島県呉市　小中一貫教育について

◆企画総務委員会　（10月28日～30日）
- 茨城県土浦市　土浦市公共施設等再編・再配置計画について
- 茨城県常総市　防災の取組について
- 神奈川県横須賀市　ＡＩ活用の取組について

◆建設委員会　（10月28日～30日）
- 神奈川県大和市　やまと防災パークについて
- 埼玉県さいたま市　自動運転バス実証実験について
- 東京都板橋区　板橋区かわまちづくりトライアル・サウンディングについて

次回発行の２月１日号に視察報告を掲載します

編集後記 ～かけはし～

◆今年は台風や豪雨の影響で例年より雨の日が多かったのではないでしょうか。日本の多くの地域で冠水や土砂崩れなどによって、多くの方が被災されました。被災された全ての皆様に謹んでお悔やみ申し上げます。刈谷市においては幸いにも大きな被害は見られなかったと思いますが、温暖化の影響もあり年々水害による被害が多くなっているのではないでしょうか。また、水害だけではなく地震への備えも重要であると思います。各自治会にて防災訓練や備蓄の管理をしていただいておりますが、全国各地で起きている災害を教訓にさらに安心安全に暮らせる刈谷市にしてまいります。

◆9月定例会では令和7年度決算を認定いたしました。また、本会議や各委員会では多くの議員が市政に対する質問や提案を行い活発な議論が交わされました。市民の皆様の暮らしがさらに豊かになるよう市議会全体で知恵を出し合いながら熟慮を重ねてまいります。

◆市議会は、市民の皆様の声を市政に反映させるための大切な場です。議会だよりを通じて議会活動への理解を深めていただければ幸いです。これからも身近で開かれた議会を目指し、分かりやすい情報発信に努めてまいります。ぜひ議会だよりや議会映像などを御覧いただき、市政への関心を深めていただければと思います。

（議会広報委員会）